

研究構想シート	学校名	出雲市立伊野小学校
	氏名	広渡優子
A 研究主題 生き生きと学び、共に考えを広げ、深める子どもの育成 ～子どもの声でつながっていく授業づくりの工夫～		
B 研究の目的 子どもの声でつながっていく授業（児童自ら課題をもち、主体的・協同的に考え、広げ、深める授業）づくりのための指導の工夫を探る。		
<p>C 子どもの実態</p> <p><u>学びに向かう姿勢</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題に対して素直に取り組もうとする児童が多い。 受動的な学びになりがちな児童が多い。 学びに向かえない児童がいる。 <p><u>協働的な学び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの学習に慣れている児童が多い。 自分の考えを相手に伝わりやすく説明するのが苦手な児童が多い。 <p><u>思考の深まり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 思考を深める課題よりも簡単に回答できる問題を好む児童が多い。 少しでも「分からない」と思うと、すぐにあきらめてしまう児童がいる。 <p><u>全体的に</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学力差が大きい。 活用・発展問題に弱い。 出題の意図を読み取る力が弱い。 語彙が豊富でない。 	<p>E 手立て・内容（研究仮説）</p> <p>既習事項や友達の考えと「比べる」ことを通して、課題や話し合う内容を焦点化すれば、主体的に学び、共に考えを広げたり深めたりしようとする子が育つだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題発見のための焦点化…既習事項と比べて課題がもてるように、提示方法や発問を工夫する。 話し合う内容の焦点化…既習事項や友だちの考えと比べて思考が広がったり深まったりするように、考えの取り上げ方（順番や提示方法）、問い返し等を工夫する。 学びの確認…本時前と本時後の自分を比べ、分かったことやできるようになったことを振り返る。 <p>※児童の実態と教科のねらいに即して焦点化する。</p>	<p>D めざす子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぼうとする子ども 共に学び合おうとする子ども 粘り強く学び続けようとする子ども
	<p>F 検証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート 研究授業での教職員の見取り（チェックシート） 研究協議（・2度目の実践） 	
	<p>G 研究計画</p> <p>4月5日 研究部で今年度の方向性について検討</p> <p>4月10日 職員会にて大まかな提案</p> <p>6月 提案授業</p> <p>6月～1月 授業実践</p> <p style="padding-left: 20px;">1 1月初旬 訪問指導（2年目研を兼ねる）</p> <p>2月中旬 今年度の研究の成果と課題をまとめ、来年度の方針を考える。</p>	